

令和6年度 東京都立神代高等学校（全日制課程）学校経営計画

東京都立神代高等学校長 小林 正人

1 目指す学校

生徒一人一人の「輝き」を磨く学校として以下の点に留意し、生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校を目指す。

- (1) 本校の教育目標「学び、鍛え、輝け」のもと、生徒一人一人の個性や適性を最大限伸ばし、真に自立し社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 「責任を伴う自由」を掲げ、規律の中で自主的・自律的に行動できる力を育成するとともに、自ら学ぼうとする姿勢と高い目標を設定し実現できる気力・体力・学力を育成する。

2 中期的目標と方策

(1) 中期的目標

教育目標にある「平和で民主的な国家・社会の形成者として貢献できる人物を育成する」ためには、様々な変化が予想される社会において、生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を持ち、一段高い目標を自ら設定しそれを実現するために創造的・主体的に努力し続ける力を育成することが欠かせない。あらゆる教育活動を通して生徒の自主性・自律性を育み、心身ともに健全で、確かな学力に裏打ちされた感性豊かな人間を育成する。

(2) 中期的目標達成のための方策

① 自律的生活習慣・規範意識の徹底と自主的活動の支援

落ち着いた学習環境を確保し心身ともに健全な人間を育成するために、人権意識・社会性・規範意識を養い、自律的生活習慣を徹底する。また、部活動・学校行事を通して自主的・自律的に活動できる力を育成すると同時に、体罰根絶・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて全校で取り組む。

② 学力向上推進への組織的取組

「予習→授業→復習」の学習習慣の確立、基礎・基本の確実な定着と応用力の育成を目指し、3年間を見通した学習指導計画を策定・実施し、検証・改善する。また、日常及び長期休業日中の補習・講習を実施し、「学習する集団」の形成に組織的に取り組む。

③ 国公立大学及び中堅上位・難関私立大学への進学実績の向上

進路指導部中心に3年間を見通した進路指導計画を実施・検証・改善し、進学実績を伸ばす組織体制を確立する。

④ 地域貢献と「自助」「共助」の精神の涵養

ボランティア活動・地域と連携した防災訓練や部活動・委員会活動等を通して、地域に貢献する態度を育て、「自助」「共助」の精神を涵養する。

⑤ 学校運営における情報共有とコミュニケーションの拡充及び服務事故の防止

教職員各自の個性や能力を生かすとともに、特定の個人に依存しない組織的な運営の実現を図る。全教職員が学校経営への参画意識を持ち、経営企画室との連携協力を進める。各事業の運営に際して、費用対効果を最大限に配慮し、効率的な予算編成・執行・管理を行う。また、都民の信頼を失わないために、服務事故の防止を徹底する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 生活指導：自律的生活習慣の確立と規範意識の徹底

ア お互いが気持ちよく過ごせる落ち着いた学習環境を実現するため、人権意識・社会性・規範意識を養い、自律的生活習慣を確立する。特に、挨拶、マナー、高校生らしい服装・頭髪、時間厳守、清掃の徹底、人の話を聞くこと等を重点的に指導する。

② 学習指導：「考えさせる」授業への転換と主体的に学ぶ態度の育成

ア 教職員の授業に関する校内・校外での研修を活性化し、知識の伝達から、生徒に「考えさせる」、主体的に取り組む授業への転換を図る。また、保護者対象の授業公開を実施するとともに授業評価アンケートを行い、授業改善に結びつける。
イ 各教科は3年間で身に付けさせる学力及び学習習慣を明確にするとともに、3年間を見通した学習指導計画を作成し、基礎的・基本的学力の定着に加え、自ら考え、答えを導き出す応用力の育成を図る。

③ 進路指導：3年間を見通した計画的な進路指導と組織的な進路指導の確立

ア 3年間を見通した進路指導計画を実施・検証し、改善を進める。拡大進路指導部会を充実させ、進路指導部が学年と連携して組織的な進路指導を実現する。また、教職員全体で生徒の学習の状況・到達度等の共有を図る。
イ データに基づく進路指導を行うため、進路データのデータベース化を推進するとともに、実力テスト等の分析結果を日常の学習指導に活用する。
ウ 国公立及び難関私大等への受験者数を増加させるとともに、合格実績を向上させる。

④ 特別活動・部活動

ア 部活動や学校行事等を通して自主的・自律的活動を支援・指導し、最後までやり遂げる「気力・体力」を育成する。より高い目標を追求する良質な自律的集団の形成を目指し、個人が集団を育て、集団が個人を育てる関係性を構築する中で、リーダーシップの育成を図る。
イ 他国の文化等を学んで多様性を尊重することの大切さを実感することで、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる資

質を養うため、オンライン英会話を実施する。

⑤ 地域との連携

- ア ボランティア活動を通して地域に貢献し、生徒の自尊感情を育むとともに、地域から信頼され応援される学校を目指す。
- イ 部活動・委員会活動等の活動を通じて、近隣の学校や地域との交流・連携を深める。
- ウ 地域と連携した防災訓練等において地域と協力し「自助」「共助」の精神を涵養する。

⑥ 健康づくり

- ア 体力テストの結果に基づき、体育における運動量を確保して体力の維持・向上を図る。特に、水泳・持久走・縄跳びを中心として、補習等も実施し最低の運動量を全員に確保する。
- イ 学校保健委員会、教育相談委員会を定期的に開催し、生徒の心身の健康状況について情報を共有する。必要に応じてケース会議を開催し、課題に対して早期に対応するとともに、全教職員による共有を図る。

⑦ 募集・広報活動

- ア 中学生・保護者に本校の特色を分かりやすく伝えられるよう、学校見学会・説明会の方法を工夫・改善する。
- イ 中学生及び中学生保護者を対象とした授業公開を実施し、本校の教育をアピールするとともに、本校を第1志望とする生徒の拡充を図る。広報活動は全身体制で臨む。
- ウ ホームページを重要な広報手段と位置づけ、内容の充実・更新回数増加を図る。

⑧ 学校経営・組織体制

- ア 分掌・教科とも組織的運営に努め、優れた取組を組織として継続的に実施する。
- イ 予算執行を効率的に行い、落差金等を有効に活用する。
- ウ 日常的な施設・設備の点検を通して、不良箇所・危険個所に迅速に対応し、安全を確保する。
- エ 服務事故の根絶及びいじめの未然防止・早期発見・対応について校内研修等を行い、全教職員で徹底して取り組む。
- オ 業務の精選を徹底するとともに、会議でのICTの活用などの工夫により時間を短縮するなど効率化を推進し、教職員のライフ・ワークバランスの実現を図る。
- カ オンライン学習について、新型コロナウイルス対策で得た知見を基に、教育活動への効果的な利用を検討するとともに、ライフ・ワークバランスを念頭に随時テレワークを取り入れる。

(2) 重点目標と方策

① 生徒自らが主体的に取り組む、「考えさせる」授業への転換

- 【方策】
- ア 知識の伝達にとどまらない、生徒に「考えさせる」、主体的に取り組む授業の実践。
 - イ 教員相互の授業参観、校内研修等を活用した、授業改善の組織的な実施。
 - ウ 本校保護者対象の授業公開及び生徒対象の授業評価アンケートの実施。
 - エ 日常・長期休業日中の補習・補講の充実や適切な課題等の設定による、学習時間の増加。
 - オ 「予習→授業→復習」の学習習慣の確立と学習方法の指導の推進。

② 国立大学・難関私立大学等への進学希望の実現

- 【方策】
- ア 生徒の進路希望を実現するための年間指導計画の見直し及び改善。
 - イ 生徒の進路希望に応じた選択科目の設置や各種補習・補講の充実による、入試に向けた学力の向上。
 - ウ 教職員全体による模擬試験棟の分析結果の共有と、日常の学習指導への活用。(模擬試験の事前・事後指導の強化等)
 - エ 拡大進路指導部会を通じた、進路指導部と学年の連携の強化による組織的な進路指導の実現。

③ 募集・広報活動の推進

- 【方策】
- ア 教務部を中心とした、全校体制による計画的な募集・広報活動の実施。
 - イ 学校見学会・説明会の実施方法の工夫・改善による、参加者数の増加。
 - ウ 中学生及び中学生保護者対象の授業公開の実施。
 - エ ホームページの内容の改善・充実及び更新回数増加。

【数値目標】 () は昨年度実績

① 年間遅刻総数の前年度比	5%減	(5%減)
② 部活動加入率	90%	(90%)
③ 授業外の学習時間	2時間以上	(平均60分)
④ 長期休業中の講習の延べ講座数	75講座	(70講座)
⑤ 現役国立大、MARCH以上の私大合格者数	130名	(94名)
⑥ ホームページ更新回数	月8回	(月6回)